

目 次

序

まえがき

歴史編

第1章 日本の物理学の歴史的構造	3
第1節 物理学の文化的異質性	3
第2節 機械と日本人	6
第3節 機械と物理学	10
第4節 物理学の導入と機械の技術	14
第5節 歴史的構造の変遷	20
第2章 江戸期（～1867）西洋物理学の受容	42
第3章 明治期（～1907）	61
第1節 明治国家と物理学	61
第2節 明治初期の物理書	68
第3節 物理用語の定着	77
第4節 理科大学の設立まで	88
第5節 京都大学の設立	104
第6節 学会の設立・震災予防調査会	113
第7節 研究者の実態	147
第8節 地球物理学の研究	156
第9節 物理学の研究	182
第4章 大正・昭和前期（～1947）	233
第1節 世界大戦と物理学の自立	233
第2節 研究機構の充実	240
第3節 物理研究の拠点の増大	247
第4節 “鉄の神様”の多産な仕事から物性物理へ	254
第5節 物理研究の対象の多様化	267
第6節 『物性論研究』への推移	299
第7節 産業と理工学	326

第5章 昭和後期 (~1977)	333
第1節 戦後日本と科学技術	333
第2節 研究体制の変革	340
第3節 研究の推移・専門分化の展開	362
第4節 専門分野の状況比較——1953年と1967年	387

回想編

原子核研究の一断面	熊谷 寛夫	421
電子回折と電子顕微鏡——過去四十年の回想——	上田 良二	450
真空管から半導体への“トンネル”の思い出	江崎玲於奈	478
物理の専門書出版史うら話し——“一般力学”を例として——	山内 恭彦	497
日本における物理学の成立	伏見 康治	503
日本における統計力学の成立	久保 亮五	521
研究の回想	宮原 将平	533
物性論の発展のなかで	永宮 健夫	542
磁性合金研究の成果を追う	広根徳太郎	562
素粒子論研究の思い出	湯川 秀樹	571
中間子論と三段階論	武谷 三男	585
量子力学と私	朝永振一郎	617

あとがき

